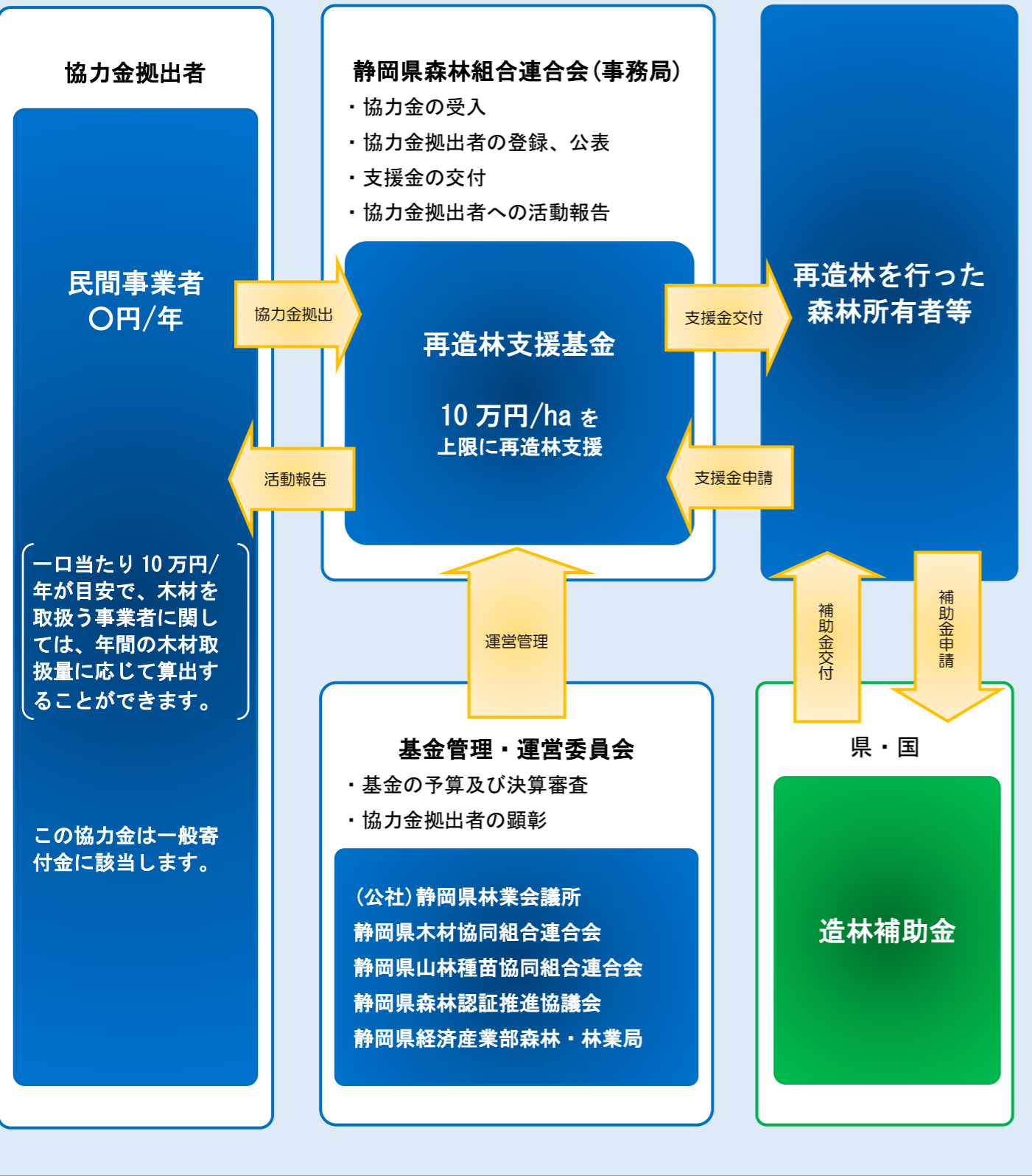


【基金による再造林支援事業】



森林を守り、育て、活かす「森林との共生」に向けて！  
ふじのくに美しい森林（もり）づくり  
**緑の基金**

持続可能な社会の実現を目指し、私たちの豊かな暮らしや生命財産を守る森林を整備するための取組に活用します。

ふじのくに美しい森林（もり）づくり 緑の基金  
[事務局] 静岡県森林組合連合会  
TEL 054-253-0195 FAX 054-253-2328  
E-mail honbu@s-kenmori.net

表紙写真：公益社団法人静岡県山林協会提供（御殿場市）

## 設立趣意書

静岡県の森林は県土の64パーセントを占め、私たちの豊かな暮らしや生命財産を守っています。

先人が植林し守り育ててきた人工林21万ヘクタールの9割は、本格的な利用期を迎えており、森林資源として循環利用することによって、二酸化炭素吸収機能の維持・向上による地球温暖化防止への貢献、また、近年、頻発する大規模な豪雨被害など、自然災害に対する土砂災害防止や洪水緩和といった機能の発揮が期待されています。

こうした中で、静岡県では、「森林との共生」による持続可能な社会の実現に向け、森林を守るだけでなく、将来にわたりその機能を維持していくため、主伐・再造林の促進による森林の再整備に取り組んでいるところです。

生活様式や経済活動の変化に伴い、人と森林とのかかわりが薄れている現代社会において、私たちにも、先人の意思を継ぎ、将来を見据えこの森林を守り、育て、活かす「森林との共生」が求められています。

「伐る、使う、植える、育てる」の基本理念を貫き、将来にわたって森林資源を確保し経済の発展に資するため、さらには、2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)に寄与するためにも、私たちが率先して行動していく必要があります。

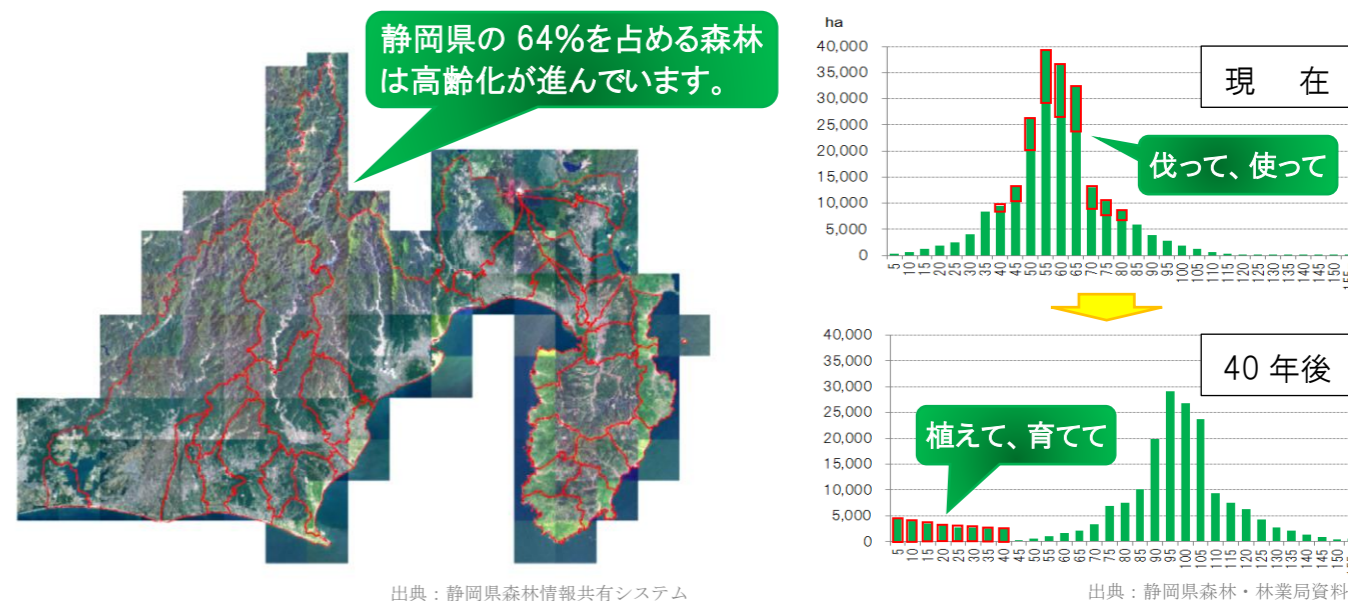
しかしながら、過疎化や高齢化の進展に加え、深刻化する野生鳥獣被害の影響により、森林所有者の経営意欲は減退しており、持続的な林業経営を確立すべくコストダウンを志向しつつも、再造林に要する負担は軽度のものではありません。

以上のことから、ここに県内・外に所在する民間事業者が相互に協力、連携して、森林所有者等が行う主伐・再造林の経費負担を軽減することにより、再造林の確実な実行と持続的な林業経営を確立し、ひいては持続可能な社会を実現していくことを目的として、「ふじのくに美しい森林(もり)づくり 緑の基金」を設立するものがあります。

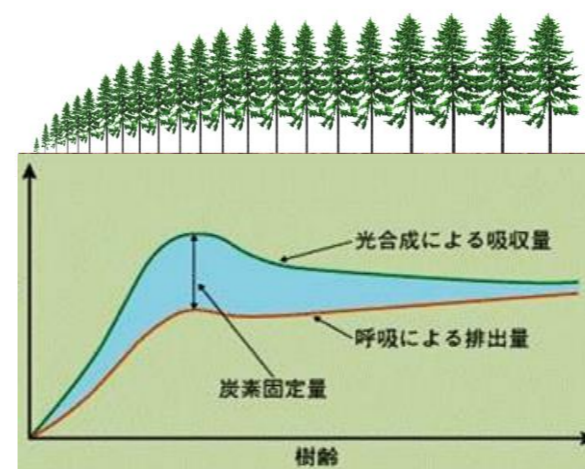
令和元年12月13日

ふじのくに美しい森林づくり 緑の基金  
代表 静岡県森林組合連合会  
代表理事長 中谷 多加二

## 伐って、使って、植えて、育てて



## 森林の多面的機能を将来にわたって発揮



出典：林野庁HP

40年生以降の森林は、二酸化炭素の吸収量が減少するため、新たな森林の造成が有効です。

1年当たりのおおよその炭素吸収量

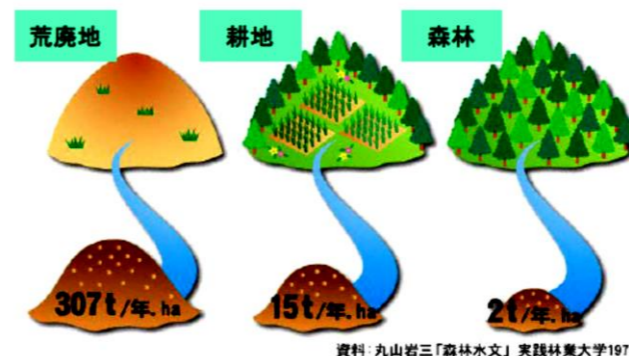
(単位：トン/ha・年)

	20年生前後	40年生前後	60年生前後	80年生前後
スギ	3.3	2.3	1.1	0.8
ヒノキ	3.1	2.0	1.1	0.3
天然林広葉樹	1.4	1.0	0.3	0.1

この炭素量を二酸化炭素の重さに換算するためには、炭素量に44/12(≒3.67)を乗じます。

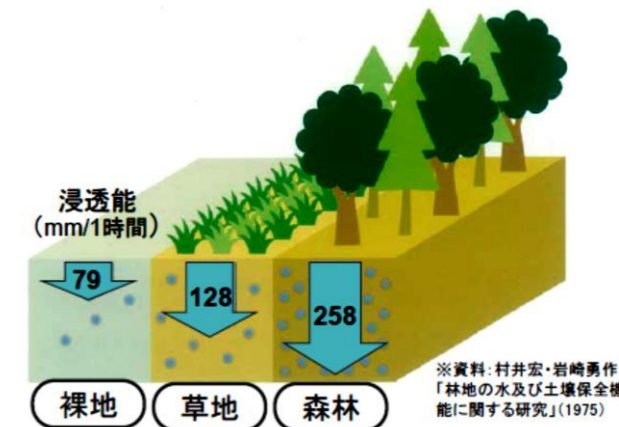
出典：(独)森林総合研究所資料

## CO<sub>2</sub>を吸収して地球温暖化防止



出典：林野庁資料

## 土砂の流出を防止



出典：林野庁資料

## 水源のかん養